

平成28年度 第3回マージン検討会 議事録

日 時 平成29年2月10日（金） 13:15～13:45

場 所 電力広域的運営推進機関（会議室B）及び各社TV会議室

出席者

坂原 淳史（北海道電力株式会社 流通本部工務部広域システムグループリーダー）
高橋 英人（東北電力株式会社 電力ネットワーク本部電力システム部給電グループ課長）
田中 泰生（東京電力パワーグリッド株式会社 系統運用部系統運用計画グループマネージャー）
佐藤 幸生（中部電力株式会社 電力ネットワークカンパニー系統運用部給電計画グループ課長）
川島 渉（北陸電力株式会社 電力流通部系統運用チーム統括課長）
中瀬 達也（関西電力株式会社 電力流通事業本部給電計画グループチーフマネージャー）
柴田 保（中国電力株式会社 流通事業本部系統技術グループマネージャー）
長谷川 隆（四国電力株式会社 電力輸送本部系統運用部給電グループリーダー）
里村 博之（代理出席）（九州電力株式会社 電力輸送本部給電計画グループ副長）

事務局

中本 健二（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループマネージャー）
吉田 重宏（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループ）
黒川 剛志（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループ）
吉田 脩人（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループ）

配布資料

- （資料1）長期計画における連系線マージンの値及び確保理由について（平成30～37年度）
- （資料2）平成29～38年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（年間計画・長期計画）
- （資料3）実需給断面における連系線マージンの値及び確保理由について

議題1：長期計画における連系線マージンの値及び確保理由について（平成30～37年度）

事務局から資料1を説明後、議論を行った。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

- ：「長期計画におけるマージンの確保理由（平成30～37年度）」の修正内容については、第1回マージン検討会（資料3）で一度確認頂いた事項だが、その後更に修正すべきと判断したため、改めて確認頂くものである。なお、主な修正点は次のとおり。

シート3、4については「長期計画においてマージンを確保する理由」から「予備力・調整力及び

潮流抑制のためのマージンと確保理由」へ表題を変更するとともに、調整力及び需給バランス評価等に関する委員会で再整理したマージン区分を< >書きで追記した。

シート5、6についても「マージンとして取扱う事項とその理由」から「電力市場取引整備のマージンと確保理由」に表題を変更した。また、今回追加したシート7に記載のとおり、利用計画策定にあたっての前提となるマージンの一部であるか否かが異なる項目をシート分けして記載することとした。

シート9～11は、上段に予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン、中段に電力市場取引環境整備のマージン、下段に合計値を記載する内訳表として追加した。但し、中段の電力市場取引環境整備のマージンの値がまだ定まっていないため、今後、値が算出された時点で検討会メンバーに確認頂くこととしたい。

議題2：平成29～38年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（年間計画・長期計画）
事務局から資料2を説明後、議論を行った。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

●：昨年度は送配電等業務指針（改定前）で「長期計画におけるマージンの値と確保すべき理由」を公表すると規定していたため、「長期計画におけるマージンの値及び確保理由」と「年間計画におけるマージンの値」のように分けて公表していた。しかし、現在は予め公表されたマージン設定の考え方にに基づき値を算出するとの位置付けに改定されたため、長期計画と年間計画における値をひとつの公表資料に纏めた。

議題3：実需給断面における連系線マージンの値及び確保理由について
事務局から資料3を説明後、議論を行った。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

●：東北東京間連系線（東京向き）の「マージンを確保する理由」は、調整力及び需給バランス評価等に関する委員会で「原則、潮流抑制のためのマージンは開放し、台風や暴風雪等リスクが高まった場合はマージン設定する」と整理されたため、昨年度から大きく変更となっている。
また、「マージンの値」については、潮流抑制のためのマージンを開放した場合（①）と、潮流抑制のためのマージンを開放しなかった場合（②）に分けて記載することとした。

以上